

令和7年度

大俣小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒エージェンシーを発揮できる児童の育成
- 生徒エージェンシーを発揮させる授業の実践

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の練習には真面目に取り組む児童が多い。 ●読み違いや思い込みがあったり、言葉の意味を理解せず使ったりしている。 ●教師や友達の話をしっかり聞くことができていない児童がいる。	・読み違いや思い込み等をせずに情報を正確に読む力を身に付けている。 ・傾聴する態度を身に付け、獲得した情報から、目的や意図に応じて必要な情報を取り出す力を身に付けている。	・読書目標達成賞を今年度も行うことで、読むことに意欲的な児童を増やす。 ・「ふたばdeシート」を通して、自らの課題を意識化させ、自ら課題解決に取り組ませる。 ・SWPBSマトリックスを活用したポジティブ行動支援で、傾聴する態度を育成する。	・朝の読書は定着してきている。しかし、読書のジャンルが限られているので、助成金を利用し図書の実践を図り、様々なジャンルの本に触れる機会を設定する。	・読書目標達成賞多くの児童が自ら本を選び、読書に向かう姿が見られた。 ・「ふたばdeシート」で1日を振り返ることによって、自分の課題に取り組む成長させることができた実感している児童の肯定的割合は90%であった。 ・SWPBSマトリックスを活用したポジティブ行動支援を実践した結果、相手の考えをしっかり聴けると肯定的に回答した児童は95%であった。	・「振り返り」から「自己調整」に深化させる。「ふたばdeシート」において、課題の自己分析に基づいた「次の一手」を具体化させる指導を充実させ自己コントロール力を育成する。 ・SWPBSマトリックスと連動した「対話力」を育成する。「きく達人」の基準を高め、アウトプットの場を意図的に設定することで、相互承認に基づいた深い学びを実現する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり話したりすることに意欲的な児童が増えてきた。 ●自信のなさから自分の意見を全体の中で発表することができない児童もいる。 ●他の児童の意見と自分の意見を比較・関連付けることが難しい。	・目的や意図に応じて、表現方法を選び発信する力を身に付けている。 ・問題を解決するために適切かどうか見直す力を身に付けている。 ・比較・関連付けて理解し、共感的な視点から捉える力を身に付けている。	・「ふたばdeシート」を活用し、自らの考えを明確にし、5つの言語意識をもたせることで、他者にわかりやすく伝える機会を設定する。 ・自らの考えを基にして、協働的な学びに生かすことができるようにする。 ・ICT機器を効果的に活用する。	・学級会や教科での発表の機会を意図的に設定し、自分の考えや意見を発言する機会を増やす。	・合意形成の場面で自分の考えを表現できることに91%の児童が肯定的回答を行った。また、意思決定については、92%の児童が肯定的回答を行っている。 ・授業中の協働的な学びに関する質問項目に対して肯定的割合は、昨年度より7%上昇し91%になった。 ・パフォーマンス課題を通して、伝える力の向上が見られた。	・「ふたばdeシート」の思考の可視化と構造化を導入する。自分の思考をメタ認知的に捉えさせるステップを設定する。 ・文章構成を意識させ、段落構成を明確にした上で、アウトプットさせる。 ・「意思決定のプロセス」を振り返るメタ認知を行わせ、変容の理由を言語化させたり、納得解を検証させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師から出された課題は、一生懸命取り組むことができる。 ●自ら課題を見付け、主体的に課題に取り組むことができていない。	・自ら課題に気付き、考え、行動したり表現したりすることができる。	・「ふたばdeシート」をもとに、自らの課題に気付き、主体的に課題に取り組むことができるように、指導・助言を行う。	・「ふたばdeシート」を活用し、自らの課題や次の行動について考える機会を継続して設定し、個別にフィードバックを行う。	・「ふたばdeシート」で、自分の課題を見付けたと肯定的回答した児童は85%であった。また、見付けた課題を考えたり、取り組んだりできたと肯定的に回答した割合も85%であった。 ・「ふたばdeシート」で、課題解決を主体的に考えることができると肯定的に回答した児童は87%であった。また、そこから新しい発見をしたと肯定的に回答した児童は88%であった。	・「問い」を精練させるリフレクションを充実させる。振り返りの視点を、「気付き」から「課題解決に向けた問い」の構築へと深め、自発的な探求心を促す。 ・自己調整サイクルを意識させる。自分で見付けた課題に対し、解決までのステップを細分化し計画させることで、自走的な学習態度を養う。 ・協働的な課題解決プロセスを共有させる。アウトプットの機会を意図的に設定し、アップデートさせる。